

2022 年 9 月期 第 3 四半期決算 WEB 会議 Q&A（2022 年 7 月 29 日開催）

シミックホールディングス株式会社

Q. コロナワクチン案件の Q3 実績及び通期見通しについて。

⇒Q3 累計でコロナワクチン案件は 100 億円を超える売上と相当額の利益を計上した。Q4 は人件費引当など特殊要因を含めたことで赤字見通しとしているが、引き続き案件があり、事業自体は順調に推移する見通し。

Q. Q4 の受注見通しについて。

⇒製薬・ヘルスケアソリューションともに引き合いがあり、順調。コロナワクチン案件は第 7 波の影響で、自治体支援及び抗原検査キットのニーズが高い。

Q. 今回上方修正した通期業績見通しの達成確度は高いか

⇒見通し数値の達成は現状見えている水準にある。

Q. 通期業績の上振れ幅のうち Q3・Q4 の配分はどうか。

⇒Q3 と Q4 での違いはない。

Q. 通期業績見通しにおいて、売上高の増加に対し利益の増加が少ない理由は、決算賞与引当等があるという理解でよいか。

⇒問題ない。

Q. 既存の製薬ソリューション 3 事業（CRO・CDMO・CSO）の通期見通しはどうか。

⇒既存事業もそれぞれ順調で増収増益基調、影響度は CRO が大きい。

Q. CRO の伸長要因は、DCT など新規領域か、従来型の臨床試験の再開によるものか。

⇒外資、内資を問わず、従来型の臨床試験を中心に活発化している。

Q. CDMO と MS の利益率が前年同期比で低下した理由は。

⇒CDMO：国内は引き合い・オペレーションともに順調だが、米国が受注案件の遅れで赤字になった影響により EBITDA マージンが低下した。国内は従来、足利工場において新棟立ち上げの問題があったが、利益が出るようになってきており、来年からフル稼働になる。エネルギーや資材コストの上昇が懸念ではあるが、国内の稼働は順調になってきた。

MS : MR 派遣業務は昨年に続き売上高、利益ともに堅調。一方、オーファンドラックの一部製品の供給に問題があったこと、新規の開発費用が発生したことから事業利益率が低下した。

Q. ブロックチェーン案件でのシミックの役割は

⇒今回サスメド社のブロックチェーンのシステムを使ってバイオベンチャーの治験を進めるわけだが、初めての取組となるため、使い勝手を含め我々のノウハウを入れていく。これからの案件だが、効率向上の可能性があると考えている。